



● 27年法話会 今回は「いのち3」です。

第81回アカデミー賞外国語映画賞を受賞した映画「おくりびと」の原作『納棺夫日記』の作者で作家の青木新門氏が、今全国で講演をしながら、「命のバトンタッチ」ということをお話くださっています。

ここに、臨終に立ち会った親族 17 人の文章が載っている小冊子があります。その中に 14 歳のお孫さんの文がありました。

「ぼくはおじいちゃんからいろいろな事を教えてもらいました。特に大切なことを教えてもらったのは亡くなる前の3日間でした。今までテレビなどで人が死ぬと、周りの人が泣いているのを見て、何でそこまで悲しいのだろうかと思っていました。しかし、いざおじいちゃんが亡くなろうとしている所に、そばにいて、ぼくはとてもさびしく、悲しく、つらくて涙が止まりませんでした。その時、おじいちゃんにはぼくにほんとうの人の命の重さ、尊さを教えて下さったような気がしました。(中略)

最後に、どうしても忘れられないことがあります。それはおじいちゃんの顔です。遺体の笑顔です。とてもおおらかな笑顔でした。いつまでもぼくを見守ってくれることを約束して下さっているような笑顔でした。おじいちゃん、ありがとうございました」

数年前でしたか、東京都が小学5年、6年生を対象としたアンケート結果によると、「あなたは葬式に行ったことがありますか」という質問に7割ほどが「行ったことがある」とありますが、その中で「臨終の場に立ち会ったことがあるか」との質問の回答は、4.8パーセントでした。100人のうち95人の子どもたちは死など見たこともないのです。

昔、私の村などでは、親の死に目に現れない者は村八分になるほど非難を受けたものです。私が肉親の死に目に立ち会うことの大切さを強調するのは、もし私が叔父の臨終の場に行っていなかったら今でも叔父を恨んでいただろうと思うからです。

葬式の現場に長く関わっていると、憎しみや怒りが渦巻くとげとげしい家と悲しみの中にも和気が漂っている家があることに気づきました。最初、あの和気はどこから来るのだろうかと思いに思いました。やがて悲しみの中にも和気が漂っている家に共通しているのは、肉親が臨終の場に立ち会っておられた家であることを知りました。

ところが現代社会は、そうした場をなくしてしまいました。核家族化のせいもあるでしょうし、仕事の関係もありましょう。また医療機関の生命至上主義が臨終の場を親族に提供しないということもあるでしょう。

そのことが当たり前のようになり、死顔など見せるものでも見るものでもないという風潮がまかり通っています。特に死を頭で考える作家や知識人に多いようです。

死の真実は死の現場でしか知ることが出来ないのです。私が死の現場で学んだことは、「いのちのバトンタッチ」の大切さでした。その体験からこんな詩が生まれました。

## 命のバトンタッチ。。。 (青木新門)

「人は必ず死ぬのだから  
いのちのバトンタッチがあるのです  
死に臨んで 先に往く人が 「ありがとう」と云えば  
残る人が 「ありがとう」と応える  
そんなバトンタッチが あるのです  
死から目をそむけている人は  
見そこなうかもしれませんが  
目と目で交わす一瞬の  
いのちのバトンタッチがあるのです 。。」

次は、小学4年の男の子の詩です。

ぼくは今日学校の帰りに  
トンボをつかまえて家へ帰ったら  
お母さんがかわいそうだから  
はなしてあげなさいと言った  
ぼくはトンボをはなしてやった  
トンボはうれしそうに空高く  
飛んでいった  
それから台所へ行くと  
お母さんがほうきでゴキブリを  
叩き殺していた  
トンボもゴキブリも昆虫なのに

少年の眼には差別がありません。お母さんは「トンボはかわいそうだから、放してやれ」と言いながら、ゴキブリは叩き殺す。このことは人間に都合のよいものはかわいそうと思うが、都合の悪いものは叩き殺しても心に痛みも感じないということです。

また科学的合理主義の欠陥は、分けて思考する癖がつくことです。分別があるということは頭がいいということになり、分別がないということは頭が悪いように言われます。そのことはやがて丸ごと認める力がなくなることです。差別が生まれ、いじめが始まります。自分に都合の良いものは善とみなし、自分に都合の悪いものは悪とみなすようになります。特に顕著なのは生と死に関していえます。いつの間にか我々は生と死を分けて考えるようになり、生にのみ価値を置き、死を悪とみなすようになりました。

### 【次のことを話し合ってみましょう！】

- 1 14歳の少年の作文を読んで、どういう感想を持ちましたか？
- 2 青木新門さんの「命のバトンタッチ」という詩を読んで、どういう感想を持ちましたか？
- 3 小学校4年生の詩を読んで、どういう感想を持ちましたか？
- 4 「臨終の場に立ち会う」「葬儀を行う」ことには、どんな意味があると思いますか？  
または、無意味なこと（必要性は感じない）であると思いますか？